

<総評>

台湾に行ってきました。台湾も悩み多い若者がいますが。悩みの理由が割とハッキリしています。アメリカ由来、中国由来、自分の属する族群由来など。それに比べると、社会のあちこちがあらかじめベールに覆われているような日本のもどかしさが際立ちます。もどかしさをどう表現できるか。今月は、もどかしさが分からなさになってしまっただけなのではないかと考えながら選びました。

まばたきをする度
星の散ってゆく
まつげのきわのすみずみと、あお

さいう 石川県
——細部を描くスローモーションのアニメのような楽しさ。

経血の昏くビル群の空腹

さいう 石川県
——経血を昏いと感じるかどうかはそれぞれだが、昏い故にビル群とも対決できる感性は新しい。

花びらが自重に落ちていく夜を
さわれずにいるきみの退屈

松下 誠一 東京都
——おのずから落ちるものはまかすしかない。どんなものにも退屈してしまうという人間の性質もなすすべが無い。

帰天者を樹液は追うか五月来る

田崎森太 神奈川県
——大木に耳を当てると維管束を伝わって登っていく水音が聴こえる。天へと昇る水だ。亡き人と共に。

未熟児の体内時計も午後を指す
いじめを許したあとの給食

マズルカ 山口県

——いじめを見逃した罪悪感があってもお腹は誰かが空く。そこからが人間としての出発点か。

横でみる川面の光 生きるのは
一人でできるといえばそうだね

辻村陽翔 北海道

——生きるやり方に「これが正しい」というものは無い。さまざまに輝いている人生の川の輝きを横から鑑賞するのもまた一興。

万緑の下にごろりとお母さん

五月閉じ花 北海道

——嬰兒の生命力に譬えられることの多い万緑だが、「お母さん」を配することで新鮮さを獲得した。

はつなつの性別欄に粹いくつ

大西 美優 広島県

——はつなつの爽やかさに、ジェンダーレスの時代の解放感が鮮やか。

うたうとはうったえること
丹田に
ふるえつづける水鏡がある

川上 真央 東京都

——水と鏡は命と心。そこを動かすことは訴えること。

ただゆっくりと

あなたを知ってゆくことの

初夏の背表紙、晩夏の栞

快名 千葉県

——人を知るということは本を読みこむことに似ている。出会いの背表紙に胸弾み、酷暑の疲れにふと栞を挟む。

ネコの手も借りたいほどの毎日に

ネコのおてては胸の下にて

ねご 秋田県

——そういえばネコの手は胸の下にチョココンとあり、役に立たない。言葉による可愛らしい発見。

本当は誰も好きじゃない君の

ステッカーまみれの

ノートパソコン

五十嵐武月 北海道

——愛着のしるしであるステッカーがべたべた貼ってある君のパソコン。でも知っているんだ。本当は君は誰も好きじゃないことを。

ときどきは善意の蔓を

時計屋の時計のように

しらんぷりせよ

霧島あきら 埼玉県

——善意ほど怖いものはないし、時計屋の時計ほど無視されやすいものはない。

雨だったことがあるのね

睡蓮を胎内にふれてきたような

匂いで

山野ゆかり 東京都

——時制と助詞が微妙にずれて、それが蓮池や雨の降る前の匂いや、未生の時間という複雑な要素を統合した独特の作品になっている。

ノックがあり

それから五十年が経つ

大月陽星 茨城県

——魅力的な物語の始まり。